



## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月26日

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社  
 コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 若林 純

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 森 忠嗣

TEL 06-6365-8120

四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	129,829	12.4	2,693	58.3	3,319	38.6	1,872	190.3
25年3月期第1四半期	115,524	△0.6	1,701	9.0	2,396	10.5	645	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 4,170百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 △1,964百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	9.65	9.60
25年3月期第1四半期	3.32	3.31

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	365,307	189,323	51.4
25年3月期	359,323	186,422	51.4

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 187,693百万円 25年3月期 184,744百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	6.25	—	6.25	12.50
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	6.25	—	6.25	12.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	268,000	13.5	3,900	80.3	4,100	48.4	2,600	△13.5	13.39
通期	570,000	8.5	15,000	40.6	15,200	34.1	8,600	38.7	44.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)当第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に該当しております。  
詳細は、添付資料P. 4「2. (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	206,740,777 株	25年3月期	206,740,777 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	12,584,372 株	25年3月期	12,583,415 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	194,157,376 株	25年3月期1Q	194,168,655 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
4. 補足情報	
株式会社阪急阪神百貨店の業績について	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

《連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	129,829	112.4
営業利益	2,693	158.3
経常利益	3,319	138.6
四半期純利益	1,872	290.3

当第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日～平成25年6月30日)における当社グループの業績は、百貨店事業において、阪急うめだ本店が、昨年10月25日の二期棟部分の先行オープン以降、順調に売上高を伸ばしたことにより、増収となったことに加えて、スーパーマーケット事業では、食品スーパーの新規出店や食品製造子会社における販路拡大が奏功した結果、PM事業、その他事業を加えた連結売上高は、129,829百万円、前期比112.4%となりました。

また、阪急うめだ本店のグランドオープンや食品スーパーの新規出店などにより、グループ全体の費用は増加しましたが、増収効果により、営業利益、経常利益及び四半期純利益のいずれも増益となりました。

各セグメントの概況は次のとおりです。

【百貨店事業】

《百貨店事業の業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	94,332	116.4
営業利益	2,192	221.6

阪急、阪神両本店が立地する西日本最大の商業集積地である大阪・梅田地区において、両本店と阪急メンズ大阪を合わせた3館の合計売上高は、60,016百万円、前期比128.6%となりました。阪急うめだ本店は昨年10月25日の二期棟部分の先行オープン以降、全てのカテゴリーで順調に売上高を伸ばし、引き続き好調を維持している阪急メンズ大阪を合わせた阪急本店の売上高前期比は、165.6%となり、大幅な増収となりました。

また、支店では、博多阪急や阪急メンズ東京、西宮阪急など近年開業した主要な店舗が引き続き好調に推移するなど、全13店舗中7店舗で前年実績を上回りました。

【スーパーマーケット事業】

《スーパーマーケット事業の業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	23,982	105.4
営業利益	184	56.1

食品スーパー「阪急オアシス」を運営する株式会社阪食では、昨年度に出店した5店舗に加えて、本年4月に阪急オアシス神戸旭通店(神戸市中央区)を新規出店し、店舗網の拡大を推し進めています。

また、食品製造子会社では、パン製造販売を行う株式会社阪急ベーカリーが、新たな販路の開拓により、売上高を伸ばし好調に推移するなど、スーパーマーケット事業は増収となりました。

一方で、利益面では、食品スーパーにおける新規出店によるコスト負担増や競合店舗との価格競争の激化に加えて、食品製造子会社では、原材料価格の上昇などが影響し、減益となりました。

#### 【PM（プロパティマネジメント）事業】

《PM（プロパティマネジメント）事業の業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	2,971	97.1
営業利益	343	70.4

株式会社大井開発では、運営する阪急大井町ガーデンにおいて、ビジネスホテル「アワーズイン阪急」が前年同時期に比べて客室稼働率が上昇し、引き続き好調を維持する一方で、商業施設の運営管理を行う株式会社阪急商業開発では、昨年8月末のモザイク銀座阪急の閉館が影響し、売上高、営業利益は前年実績を下回りました。以上の結果、PM事業全体では減収減益となりました。

#### 【その他事業】

《その他事業の業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	8,542	98.4
営業利益	1,307	433.9

その他事業では、売上高は僅かながら前年実績を下回りましたが、利益面では、持株会社であるエイチ・ツー・オー リテイリング株式会社において、子会社からの受取配当金やグループ運営負担金の増加により、大幅な増益となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は365,307百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,983百万円増加しました。これは、季節要因により受取手形及び売掛金が5,031百万円、株式含み益の増加などにより投資有価証券が3,473百万円、それぞれ増加した一方、配当金の支払などにより現金及び預金が2,292百万円減少したことなどによるものです。

負債合計は175,983百万円となり、前連結会計年度末から3,082百万円増加しました。これは運転資金の調達などに伴い短期借入金が7,000百万円増加しましたが、季節要因により買掛金が2,825百万円減少したほか、法人税の納付により未払法人税等が2,831百万円減少したことなどによるものです。

また、純資産は189,323百万円と前連結会計年度末から2,900百万円増加しました。これは主として、株式含み益の増加によりその他有価証券評価差額金が2,189百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は51.4%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期の連結業績はほぼ想定通り推移しており、第2四半期累計及び通期の予想については、平成25年5月9日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社グループは、従来、有形固定資産の減価償却方法として、主として定率法を採用しておりましたが、連結子会社の株式会社阪急阪神百貨店及び株式会社阪食において、当第1四半期連結会計期間より、定額法に変更いたしました。

この変更は、百貨店事業において阪急うめだ本店がグランドオープンし、一連の重要な設備投資案件が完了したこと、また、スーパーマーケット事業において平成25年度以降、新規出店を拡大する計画であることを契機として、当該連結子会社が保有する有形固定資産の償却方法について、実態を踏まえて改めて見直しを図ったところ、新規出店・店舗改装後の売上高等の投資効果は安定的に発現すると見込まれるため、定額法を採用した方がこれら連結子会社の実態を、より適切に表すと判断したことによるものです。

今回の変更に伴い、従来の方によった場合に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益はそれぞれ78百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,135	12,842
受取手形及び売掛金	22,960	27,991
有価証券	0	0
商品及び製品	14,863	16,737
仕掛品	270	575
原材料及び貯蔵品	945	867
繰延税金資産	6,116	4,887
未収入金	2,935	2,559
その他	2,258	2,805
貸倒引当金	△68	△74
流動資産合計	65,418	69,192
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	76,299	74,733
機械装置及び運搬具（純額）	2,126	2,184
土地	35,730	35,730
建設仮勘定	1,355	2,681
その他（純額）	7,799	7,407
有形固定資産合計	123,312	122,736
無形固定資産		
のれん	16,019	15,717
その他	8,739	8,344
無形固定資産合計	24,759	24,062
投資その他の資産		
投資有価証券	87,639	91,112
長期貸付金	2,635	2,637
差入保証金	47,609	47,690
繰延税金資産	6,736	6,732
その他	1,368	1,295
貸倒引当金	△154	△153
投資その他の資産合計	145,833	149,314
固定資産合計	293,905	296,114
資産合計	359,323	365,307

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	35,960	33,134
1年内償還予定の社債	34	34
短期借入金	5	7,005
1年内返済予定の長期借入金	580	555
未払法人税等	3,092	260
繰延税金負債	0	0
商品券	19,275	19,668
賞与引当金	3,661	1,418
資産除去債務	32	19
その他	28,056	30,775
流動負債合計	90,700	92,873
固定負債		
長期借入金	41,210	41,125
繰延税金負債	17,537	18,711
再評価に係る繰延税金負債	310	310
退職給付引当金	12,561	12,438
役員退職慰労引当金	160	157
商品券等回収引当金	1,874	1,901
長期未払金	2,476	2,449
長期預り保証金	5,671	5,663
資産除去債務	280	278
その他	118	74
固定負債合計	82,201	83,110
負債合計	172,901	175,983
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	48,260	48,262
利益剰余金	99,032	99,691
自己株式	△132	△137
株主資本合計	164,957	165,613
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,976	22,165
土地再評価差額金	81	81
為替換算調整勘定	△269	△166
その他の包括利益累計額合計	19,787	22,079
新株予約権	531	529
少数株主持分	1,145	1,100
純資産合計	186,422	189,323
負債純資産合計	359,323	365,307



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	115,524	129,829
売上原価	83,687	94,497
売上総利益	31,836	35,331
販売費及び一般管理費	30,135	32,638
営業利益	1,701	2,693
営業外収益		
受取利息	18	17
受取配当金	541	629
諸債務整理益	356	370
その他	329	140
営業外収益合計	1,245	1,157
営業外費用		
支払利息	99	117
商品券等回収引当金繰入額	270	297
その他	180	116
営業外費用合計	550	531
経常利益	2,396	3,319
特別利益		
固定資産売却益	142	—
特別利益合計	142	—
特別損失		
固定資産除却損	646	53
新店舗開業費用	518	—
特別損失合計	1,164	53
税金等調整前四半期純利益	1,374	3,266
法人税、住民税及び事業税	407	175
法人税等調整額	310	1,210
法人税等合計	717	1,386
少数株主損益調整前四半期純利益	656	1,879
少数株主利益	11	6
四半期純利益	645	1,872

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	656	1,879
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,677	2,187
為替換算調整勘定	56	103
その他の包括利益合計	△2,621	2,290
四半期包括利益	△1,964	4,170
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,975	4,164
少数株主に係る四半期包括利益	10	5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	81,038	22,748	3,059	8,677	115,524	—	115,524
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	67	995	910	3,888	5,861	△5,861	—
計	81,106	23,744	3,969	12,565	121,385	△5,861	115,524
セグメント利益	989	329	488	301	2,107	△406	1,701

(注) 1. セグメント利益の調整額△406百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	94,332	23,982	2,971	8,542	129,829	—	129,829
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	119	1,029	635	5,466	7,250	△7,250	—
計	94,451	25,012	3,606	14,008	137,079	△7,250	129,829
セグメント利益	2,192	184	343	1,307	4,028	△1,335	2,693

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,335百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、当社グループは、従来、有形固定資産の減価償却方法として、主として定率法を採用しておりましたが、連結子会社の株式会社阪急阪神百貨店及び株式会社阪食において、当第1四半期連結会計期間より、定額法に変更いたしました。

この変更により、従来の方法によった場合に比べて、当第1四半期連結累計期間のセグメント利益は、「百貨店事業」で68百万円、「スーパーマーケット事業」で9百万円、それぞれ増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 補足情報

株式会社阪急阪神百貨店の業績について

(1) 第1四半期累計期間の業績

(単位:百万円)

	第1四半期実績	
	金額	前年同期比
売上高	94,226	116.7%
売上総利益	23,552	117.8%
その他の営業収入	225	59.8%
営業総利益	23,778	116.7%
販売費及び一般管理費	21,381	111.3%
営業利益	2,397	205.7%

(2) 店別売上高

(単位:百万円)

	第1四半期実績	
	金額	前年同期比
阪急本店(注)1	41,136	165.6%
千里阪急	3,974	100.6%
堺 北花田阪急	2,284	98.9%
川西阪急	3,981	97.5%
宝塚阪急	2,074	100.9%
西宮阪急	5,635	101.8%
三田阪急	292	99.7%
博多阪急	8,971	106.6%
阪急メンズ東京	2,716	105.0%
阪急百貨店 大井食品館	1,075	101.3%
都筑阪急(注)2	1,194	70.0%
阪神梅田本店	18,880	86.5%
あまがさき阪神	853	98.3%
阪神・にしのみや	1,027	97.8%
阪神・御影	126	100.9%
合計	94,226	116.7%

(注)1 阪急メンズ大阪、インクス館(阪急うめだ本店へ売場を移設し、平成24年11月18日閉館)の業績を含む。

(注)2 平成24年10月3日 2~4階部分をショッピングセンターに業態変更し、これに伴う収益は(株)阪急商業開発にて計上。

(3) 商品別売上高

(単位:百万円)

	第1四半期実績	
	金額	前年同期比
衣料品	30,957	111.6%
身の回り品	17,449	130.7%
家庭用品	3,422	117.9%
食料品	27,240	109.8%
食堂・喫茶	2,991	169.4%
雑貨	11,177	121.5%
サービス	525	97.9%
その他	462	111.6%
合計	94,226	116.7%